

日高山瓦窯の発掘調査

飛鳥藤原第 213 次調査

(独) 国立文化財機構奈良文化財研究所
都城発掘調査部

2023 年 5 月 15 日～8 月 1 日

日高山瓦窯は、藤原宮（694～710）の建物の瓦を焼いた瓦窯の一つです。その中で藤原宮に最も近く、これまでの調査研究から、藤原宮の外周をめぐる堀（大垣）を中心に瓦を供給していたこと、藤原宮造営の初期段階に操業されていたことが指摘されています。今回、日高山瓦窯の解明に向けた発掘調査をおこないました。

日高山瓦窯において合計9基の瓦窯を発見しました。複数の窖窯と平窯を併用する、大規模な瓦生産体制が整えられていたことが明らかとなり、藤原宮の造営を支えた瓦生産工場の操業実態を示すとともに、古代東アジア的視点から日本における造瓦技術の導入と伝播を考える上で、重要な成果といえます。

1号窯 窖窯 窖窯。周囲の地山を平面長方形に掘り込み、粘土と砂を版築状に積み上げた内側に粘土を貼り付けて窯をつくっています。焼成部の奥には日乾レンガを積み上げた1本の煙道を備えています。

2号窯 平窯 平窯。周囲の地山を平面杓子形に掘り込み、内側に日乾レンガを積み上げて窯をつくっています。焼成部の奥には3本の煙道を備えていたとみられます。

3号窯 燃焼部 燃焼部を検出しました。詳しい構造は不明ですが、被熱痕跡の広がりから、比較的小型の窯が想定できます。

4号窯 平窯 平窯。基本構造や平面形は2号窯と共通しており、周囲の地山を平面杓子形に掘り込み、内側に日乾レンガを積み上げて窯をつくっています。3本の煙道を備えていたことが過去の調査で明らかになっています。

5号窯 窖窯 窖窯ですが、日乾レンガを積み上げてつくっており、1号窯とは構築方法が異なります。北側の灰原に多量の瓦が堆積しているため、複数回瓦を焼いたと考えられます。

6号窯 窯 窯の周辺を掘り込んでいることと、版築状の積み土の存在から、1号窯と同様に、窖窯と考えられます。燃焼部と焚口を検出しており、その手前に灰原が堆積しています。

7号窯 灰原 灰原を検出しました。窯は調査区の南側に存在すると考えられます。

8号窯 窯 窯の周辺を掘り込んでいることと、版築状の積み土の存在が1号窯と共通しますが、未完成のまま放棄されたと考えられます。

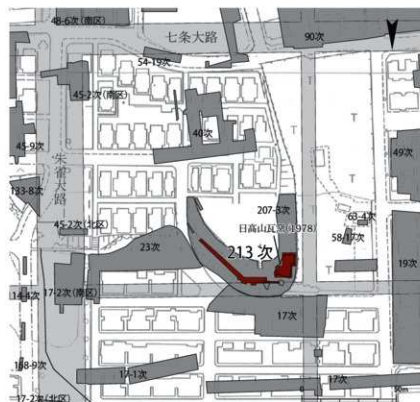
9号窯 焼成部 焼成部または燃焼部とみられる部分を検出しました。窯の周辺を掘り込んでいることと、版築状の積み土の存在から、窖窯と考えられます。天井壁の一部が残存しています。

焼成土坑 土坑 何らかの焼成に用いられた小型の土坑です。壁は熱を受けて変色し、底部には炭化物を含む土が堆積しています。

南北溝 素掘り 素掘りの溝を検出しました。埴輪や土師器、須恵器の破片が出土したことから、古墳の周濠と考えられます。



日高山瓦窯の位置

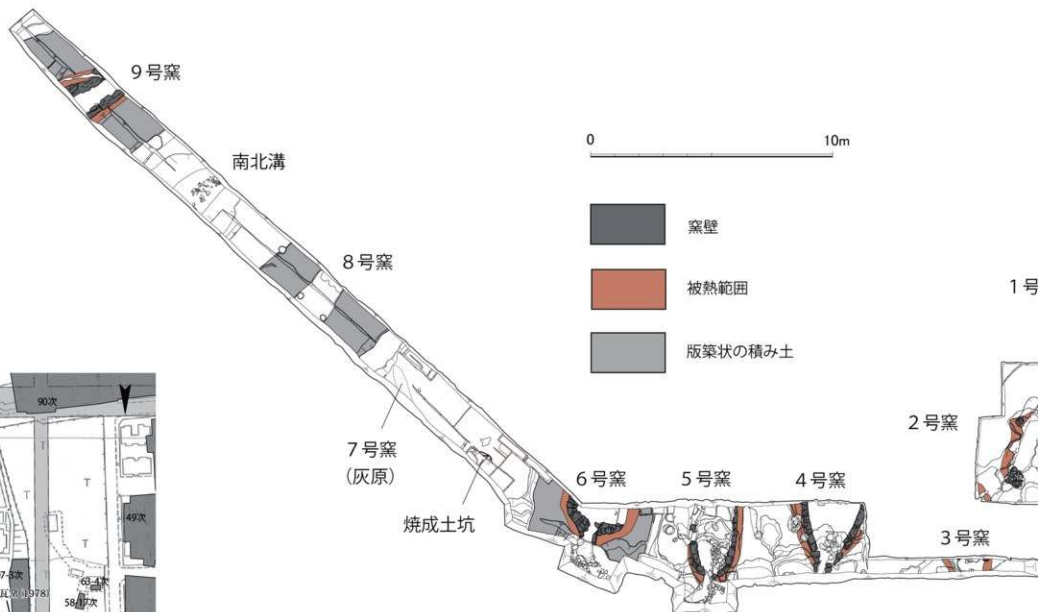


第213次調査区位置図

※瓦窯に関する用語

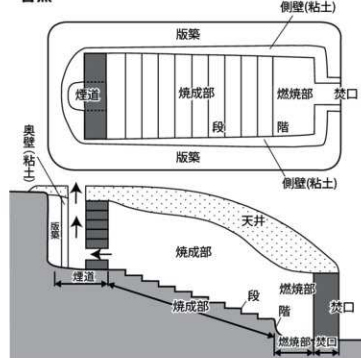
窯室（あながま）：焼成部が傾斜する構造の窯。瓦窯では斜面に複数の段差をもつものが多い。
平窯（ひらがま）：焼成部が平坦か、極めてゆるい傾斜をもつ構造の窯。
地下式（ちかしき）：地山をトンネル状に掘り、天井も地山で構築する。
半地下式（はんちかしき）：地山を平面的に掘り、天井は別に粘土などを用いて構築する。
焚口（たきぐち）：燃料となる薪をくべる部位。
燃焼部（ねんしょうぶ）：薪を燃やし、灰をおこす部位。

階（かい）：燃焼部と焼成部を区別する段差。
焼成部（しょうせいぶ）：製品の瓦を置く部位。
煙道（えんどう）：窯の中の煙を外に排出する部位。
前庭部（ぜんていぶ）：焚口の前に広がる空間。
灰原（はいばら）：窯内部の焼成不良品や灰をかき出したもの。前庭部に広がっていることが多い。
日乾（ひばし）レンガ：粘土を型に詰めて直方体に成形し、日光で乾燥させたレンガ。日高山瓦窯の日乾レンガはそこにスサ（粘土のつなぎになる薬などの材料）を多く含む。

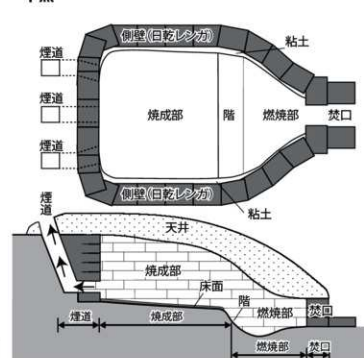


遺構平面図

窯室



平窯



日高山瓦窯の瓦窯の種類とその構造（模式図）



1号窯（西から）
窯の周囲を大きく掘り込み、版築状の積み土をして窯をつくる



2号窯（西から）
奥に煙道を構成したとみられる日乾レンガが堆積する



3号窯（北から）
燃焼部に炭を多量に含んだ土が堆積する



4号窯（北から）
窯の内部には多量の瓦が残置されていた



5号窯（北から）
燃焼部および灰原に多量の瓦が堆積する



6号窯（北から）
焚口が垂直に立ち上がり、手前には灰原が広がる



7号窯（北から）
整地土上に灰原が広がる



8号窯（北西から）
版築土の内側に窯体をつくることなく放棄された



9号窯（北から）
天井壁の一部が残存する



焼成土坑（西から）
壁は熱を受け、底部には炭化物を含む土が堆積する



南北溝（北から）
底から埴輪片・土師器片・須恵器片が出土した

〒 634-0025

奈良県橿原市木之本町 94 - 1

奈良文化財研究所

都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）

TEL 0744-24-1122（代）